



ぼくたちわたしたちの

みちしるべ

~Run to the FUTURE~



令和5年7月・8月号発行

発行元

早稲田育英セミナー

0120-198176

www.wasedaikuei.co.jp

全国のみんなこんにちは!!



元気に毎日過ごしていますか。さあ、長いようで短かった1学期も、あとわずかです。間近にせまった夏休みに向けて、集中できることを探してみませんか。たとえば、ゆっくりと自分の将来について考えてみる、じっくりと気になることを調べてみる、受験勉強にエネルギーを注ぐなど、様々だと思います。

夏休みは、実質40日間。この40日間は使い方によって、充実した40日間にもなるし、いつのまにか終わってしまった40日間にもなります。後者にならないためにも、自分が集中して取り組めるものをこの夏休み前に探し、実行するための計画を立てましょう。夏休みは、来年もきます。しかし、今のその学年で迎える夏休みは、もう二度ときません。一生に一度きりです。さあ、自分による自分のための、この夏特別のプロジェクトをたててみましょう。

現在メジャーリーグで活やくしている大谷翔平の投げるボールの速度は時速165キロにも達します。

また、意外なことにみなさんがする「くしゃみ」の平均時速は320km。この数字は東北新幹線「はやぶさ」のMAXスピードと同じなんです。このように、今回は身の回りの速度にまつわる話をしたいと思います。ところで、一番足の速い人間と一番足の速い昆虫、どちらのほうが速いと思いますか？

答えはなんと昆虫です！

日本でも見ることができる昆虫、ハンミョウの中には、時速80kmで走ることができるものもいます。人間の最速記録を持つウサイン・ボルトさんが時速40kmくらいを出すので、比べるとなんと倍近いスピードですね。

このように、一つのポイントに注目して周りを見てみると、知らなかったことや意外なことがたくさん見つかりそうですね。

速度にまつわる話

比べてみよう乗り物の「速さ」

乗り物の速さ(時速)

続いて、色々な乗り物の速さを比べてみましょう。まずは私達が日本で乗ることができる乗り物をご紹介します。私達が乗れる乗り物の速さ(時速)

鉄道	320km/h(新幹線「はやぶさ」)
飛行機	900km(一般的なジェット旅客機)
船	83km(ジェットfoil)
車	40km/h(普通乗用車、公道)
ロープウェイ	43km(日本最速、びわ湖バレイスキー場)
自転車	15km(シティサイクル)
スクーター	30~60km

やはり速さでは飛行機がダントツトップです。車は、日本では公道で出せるスピードが決まっているため時速120kmが最高速度ですが、実際はもっと速く走れるように作られています。みなさんは想像以上に速かった乗り物、遅かった乗り物は何でしたか？

次はレースという、速度を競ったときの乗り物の速さです。

レースにおける乗り物の速さ(時速)

F1レース(車)	約400km
競輪(自転車)	約70km
競艇(ボート)	約70km
競馬(競走馬)	約70km
オートレース(バイク)	約150km

レーシングカーは新幹線を上回るスピードを出せるものもあるんですね。時速400kmで走るということは、1秒で111m先に進むということ。よく見ても見逃してしまいそうです。

また興味深いのは、競輪(自転車)、競艇(ボート)、競馬(馬)がすべて同じくらいの速さだということ。レースでは自転車でも車と同じくらいのスピードが出ることも驚きですが、競走馬の速さにもびっくりしますね！

比べてみよう目に見えない、形のない「速さ」

最後に、身の回りにあるけれど直接見るができなかったり、触ることができないものの「速さ」のご紹介です。

音	秒速 340m
光	秒速 30万km 地球7周半
電波	秒速 30万km (電波も光も電磁波の一つ、同じ仲間なので速さも同じ)
雷	先駆放電 秒速 200km
主放電	秒速 10万km

どれも速すぎて、それって一体どのくらいの速さ？と、いまいちピンとこないですね。例えば音は、1秒で東京タワーの下から頂上まで登れてしまうくらいの速さ、光や電波は1秒で地球を7周できる速さです。

雷は落ちる前に横に広がる「先駆放電」と、地面に落ちる「主放電」とで500倍も速さが違うんですね。

他にも気になる速さがあったら自分で調べてみるのもよいでしょう。



まずは生き物「速さ」ランキング

まず、みなさんもよく知っているものもあると思いますが、「速い」生き物についてご紹介します。生き物、といっても様々な環境、生態に分かれているので、ここでは「歩く」「泳ぐ」「飛ぶ」の3つのグループに分けて紹介していきます。

歩く生き物の速さ 第1位~第3位

- 1位 チーター 120km/h
- 2位 スプリングボック 100km/h
- 3位 プロングホーン 88km/h

陸上を歩く動物のなかで、速さ第1位は皆さんご存知のチーターです。速く走ることに特化して進化したチーターは、やはり不動の1位ですね。時速120kmというと高速道路で走る車の最高スピードです。2位と3位はどちらもウシ科の草食動物です。肉食動物から逃げるために速く走れるように進化したんですね。

泳ぐ生き物の速さ 第1位~第3位

- 1位 バショウカジキ 120km/h
- 2位 メカジキ・マグロ 100km/h
- 3位 シャチ 88km/h

あまり知られていませんが、水中にもチーターと同じくらい速く動ける生き物がいるんですね。

ただ、水中の生き物なので、正確な速さの計測は難しいのが現実です。記録されているバショウカジキの120km以外にも、マグロが160kmで泳ぐという説もあり、本当のNo.1ははっきりとはわからないそうです。

飛ぶ生き物の速さ 第1位~第3位

- 1位 ハヤブサ 350km/h(急降下時)
- 2位 ハリオアマツバメ 170km/h
- 3位 メキシコオヒキコウモリ 160km/h

世界で最も速く動く生物は、その名も有名なハヤブサでした。新幹線やジェットコースターの名前にも使われるほどそのスピードは知られていますが、まさか本当に新幹線より速いとは！ただ、ハヤブサの最高速度は獲物を狙って急降下する時のもの。普通に飛んでいる時は時速100km/h程度だそうです。

番外編 1番遅く動く生き物

ちなみに一番遅い生き物は、サンゴなど定着して動かないものを除くと、「バナナナメクジ」です。アメリカのカリフォルニア州に生息し、体長20cm、黄色と黒の模様でバナナに似ていることが名前の由来のこのナメクジ、動く速さは時速約8.28cm。2m移動するのに丸1日かかるのです。

野球の歴史



今年2023年はWBC(ワールド ベースボール クラシック)が開催され、日本が優勝し大活躍しました。そんな中、日本のプロ野球も開催されてお客さんの観戦が増えているようです。このような野球は果たしてどのように生まれ、発展していったのか。その歴史についてご紹介したいと思います。

① 野球の歴史とは？

野球の歴史は、12世紀のスポーツが起源となっています。野球が今の形になるまでに、約700年の年月が経っています。当時は、ルールが決まっておらず、プレイする場所や人によりルールを決め、遊んでいました。のちに、野球は人気スポーツとして楽しめるようになり、ルールが決められ世界中で愛される競技となっていきます。

① 野球の起源

野球の起源は12世紀フランスでラ・シュールというスポーツが起源となっています。ラ・シュールは現在の多くのスポーツの起源となっていて、ラ・シュールのルールは以下のように行われていました。

- ・2チームで行う
- ・手や足、道具を使用
- ・杭の間にボール通すことで得点になる

ラ・シュールはフランスの貴族の遊びとして当時は楽しまれていました。

① ボールを投げる ストールボール

野球の発祥国はイギリスとなっています。フランスからラ・シュールが伝わり、14世紀にイギリスでストールボールというスポーツに変化していきました。これは農場の仕事をしている女性たちが楽しんだスポーツ。

1人が的に向かってボールを投げ、もう一人が素手でボールを止めて的を守るというルールでした。こちらは2チームに分かれて攻守を競うボールを投げるスポーツの起源と言われています。

① ボールを打つ クリケット

ストールボールは徐々に変化して、16世紀頃には「クリケット」が生まれます。今でも世界2位の競技人口を誇ると言われるクリケットは、**投げられたボールを木の棒で打つのが特徴**。かなり野球に近いスポーツであることが分かります。

① 野球の直接の先

また、18世紀にラウンダーズというスポーツが誕生します。ラウンダーズは小石を靴下に詰めたものをボールとして、ポートのオールでボールを打つスポーツとして楽しまれていました。

そして打者がボールを打った後、1番目のベースから順に回り、1周すると1点入るといったルール。現在の野球にかなり近いルールで、**ラウンダーズが野球の直接のルール**だと言われています。

① 野球の始まり

ラウンダーズは19世紀にイギリスからの移民によってアメリカに伝わり、大人気に。アメリカ各地で開かれた「タウン・ミーティング」という集会のレクリエーションスポーツとして親しまれました。そのため「**タウン・ボール**」とも呼ばれましたが、当時は参加人数や塁の位置など、ルールは街ごとにバラバラでした。そこで**1845年にニューヨークの実業家アレキサンダー・カートライトがルールを統一**。

塁間の距離やチームの人数、ファウルライン、アウト3つで攻守交代、アウトにするために塁にボールを送る(それまではボールを走者に当てていた)など、ルールの基礎が作られ、これが**野球の原型**となったのです。

ただしこの頃の野球は9イニング制ではなく、21点先取するまで続くというルールでした。一方で試合後には一緒に食事をするという暗黙のルールがあったため、いつ試合が終わるのかわからず調理に困ると料理人から不満が噴出。終了時刻が読みやすくなるよう、およそ10年後に9イニング制に変更になったと伝えられています。

① 野球の発展

ルールが定められた野球は全米で大人気に。

アマチュアクラブが盛んに作られ、**1858年には初のアマチュア組織NABBP(ナショナル・アソシエーション・オブ・ベース・ボール・プレイヤーズ)**が発足します。さらに人気が加熱すると報酬を得てプレイする選手も現れ、1869年には全員がプロ選手の「シンシナティ・レッドスキンズ」が誕生。

1871年に誕生した初のプロ組織「ナショナル・アソシエーション」は5年で破綻しましたが、**1876年に「ナショナル・リーグ」が結成**されました。

一方の「アメリカン・リーグ」は1901年にメジャー・リーグであることを宣言。こうして現在まで続く2大リーグ制が確立しました。メジャー・リーグのチーム数は1960年まではナショナル、アメリカンそれぞれ8球団の計16球団でしたが、徐々に拡大。1998年には各リーグ15球団、計30球団という規模になっています。

① 野球の語源

野球の語源は、第一高等中学校の学生で野球部員だった中馬庚が野球とベースボールを日本語に訳したのが語源となっています。中馬はベースボールの翻訳を**Ball in the field**とし、日本語訳を野球と呼んでいました。野球と呼ばれる前はベースボールを漢字に変換し底球や玉遊び、打球おにごっこと呼ばれていました。

① 日本野球の歴史

日本野球の歴史は浅く1873年にはじめて日本に野球が持ち込まれました。持ち込まれていたときは、野球というスポーツではなく、玉遊びや底球と呼ばれていました。学生や社会人に多く楽しめるスポーツとなり全国に広がり、次第に日本での野球人気が加速していきます。

日本での野球人気が大きくなることで、夏の甲子園や、プロ野球へと発展し多くの国民に愛されるスポーツとなっていきます。

① 日本野球の起源

日本野球の起源は、1872年に開成学校(後の東京大学)のアメリカ人教師だった**ホーレス・ウィルソン**が、アメリカから野球のボールとバットを持ち込んだことがきっかけとなっています。

ホーレス・ウィルソンが学生に野球を教えたことがきっかけで、学生や社会人に楽しめるようになりました。6年後には社会人野球チームが結成され、日本での野球人気が高まっています。

① 夏の甲子園の開催

野球の人気が高まり、甲子園の第1回大会が開催されました。第1回大会は全国中等学校優勝大会として豊中球場で行われました。1948年に第30回大会が開催され、第30回大会からは学生改革により全国高等学校野球選手権大会と大会名が変更になります。

現在の甲子園と呼ばれるようになったのは1968年の第50回大会の**50回を記念して甲子園球場で開催**したのがきっかけでした。以後の大会は全試合甲子園で開催されるようになりました。

① 日本プロ野球のたん生

日本プロ野球の誕生は1920年に**合資会社日本運動協会が設立から始まった**となっています。1923年にプロ球団の宣言がされました。1923年の関東大震災により日本運動協会が解散し、宝塚運動協会として再結成されます。日本プロ野球の協会や連盟は、解散と改称を繰り返し、1949年に日本野球機構が誕生しました。

当年にセントラルリーグとパシフィックリーグも誕生し1950年に各リーグの優勝チームの対決、日本選手権シリーズが開催されました。日本選手権シリーズは1954年から日本シリーズと呼ばれるようになりました。